

# 昭和56年度貝類漁場の形成条件 適正利用に関する研究 (要 約)

田中 俊輔・青山 禎夫・三戸 芳典・仲村 俊毅  
平野 忠・高橋 克成・三津谷 正・永峰 文洋

## はじめに

陸奥湾におけるホタテガイ増養殖産業は、昭和40年代に入って急速に進展し、昭和49年には4.7万トンの生産をあげるまでに成長した。しかし、昭和50年に発生した大量へい死は、この年の被害だけでも70億円を超え、ホタテガイ産業が崩壊の寸前にたちいたった。

この事態に対応して青森県では、水産庁の助成を受けて研究開発促進事業(51~55年度)<sup>1)</sup>を実施し、へい死克服の為の調査を行い、その成果を養殖現場に普及した結果、生産の回復がみられ、ホタテガイ産業は甦りの基盤を得た。

しかし、生産の両翼である地まき増殖は依然として低迷を続けている。したがって、地まき増殖における種苗生産方法から採捕にいたるまでの増殖管理技術および漁場の有効利用と生産性の評価を行って、ホタテガイ増殖技術体系の確立をはかることが急務であると考えられた。

以上の認識から、本研究では産業規模の実証試験を行って、ホタテガイ増殖技術を確立体系化し併せて漁場の有効利用と生産性を評価しようとした。

## 全体計画の概要

項 目	研 究 の 趣 旨	56年度	57年度	58年度
1. 増殖技術改良研究	実態把握と漁場利用改良研究	○	○	○
2. 漁場生産性評価研究	漁場評価と生産性の類型化	○	○	○
3. 地まき増殖実証試験	実証試験と漁場管理研究	○	○	○
4. 漁場環境条件調査	実証漁場調査と海況観測	○	○	○
5. 管理技術の体系化	技術の総合化			○

なお、本研究の実施にあたり、試験海域の便宜をいただいた脇野沢漁業協同組合(中島 俊二組合長)、およびむつ地方水産業改良普及所、青森地方水産業改良普及所に深謝する。

1) ホタテガイ養殖技術研究レビュー(貝類養殖漁場適正利用技術開発研究報告書)昭和51年~55年度、青森県水産増殖センター 昭和57年3月

なお、本研究の詳細については、「昭和56年度貝類漁場の形成条件、適正利用に関する研究中間報告書、56年10月」、および「昭和56年度貝類漁場の形成条件、適正利用に関する研究報告書、57年3月」の各報告書、(コピー)を参照されたい。